

讃岐国府周辺の古代寺院 ー開法寺跡・鴨廃寺・醍醐寺跡ー

讃岐国府跡が所在する坂出市府中町付近では、3つの古代寺院（開法寺跡・鴨廃寺・醍醐寺跡）が確認されています。これまでに行われた発掘調査や資料採集などから、8世紀以降に整備されたと考えられます。

開法寺跡・鴨廃寺・醍醐寺跡は讃岐国府跡から半径2.5km以内に建立されており、国府と同じ時期に営まれている点が特徴的です。

これらを築造した有力者たちは讃岐国府の設置や展開に何らかのかかわりをもっていたと想定されます。

本展では、これらの寺院を紹介するとともに、出土・採集された資料を展示しながら、讃岐国府が営まれた時代について考えます。

今回のテーマ展は第1展示室で、令和5年2月6日から5月26日まで開催しています（開館時間9：00～17：00、休館日：土、日、祝日）。



◀ 今回のテーマ展の展示風景



▲ 讃岐国府跡周辺に位置する遺跡



▲ 開法寺塔跡の礎石



▲ 鴨廃寺の塔跡と想定される礎石



▲ 醍醐寺跡



◀ 同じ范型を用いて製作された軒丸瓦
左：鴨廃寺
右：開法寺跡



香川県埋蔵文化財センター

〒762-0024 香川県坂出市府中町字南谷5001-4

tel. 0877-48-2191 fax. 0877-48-3249

<https://www.pref.kagawa.lg.jp/maibun/maibun/index.html>



いにしへの讃岐

NO.112



▲ 第40次讃岐国府跡発掘調査
1トレンチ全景写真（東から）

第40次讃岐国府跡発掘調査の成果

今年度の調査地点は史跡指定地の北西約200mの場所です。調査地点の北側で行われた昭和53年度(3次)や昭和59年度(9次)の調査では、長さ約50mの古代の大溝とその西側に柱穴列が確認されており、国衙関連施設を区画するものと考えられています。

今回の発掘調査では、大溝と柱穴列から想定される1辺約50mの国衙の広がりや内部施設を確認することを目的として、2本のトレンチを設定し、飛鳥時代から江戸時代にかけての遺構を検出しました。

1. 飛鳥時代の遺構

1トレンチ南東隅で掘立柱建物跡(SB01)を検出しました。建物の北西隅となる3つの柱穴が見つかり、建物の主軸は真北(正方位)を向いています。

時期が分かる遺物は出土しませんでした。史跡指定地では7世紀後葉～8世紀初頭にかけて造営された前身官衙(国府成立以前の官的施設)と想定される大型建物群が正方位主軸を採ることから、この建物跡も同時期のものと考えられます。



▲ 飛鳥時代後葉の掘立柱建物跡(SB01)(北から)

2. 奈良～平安時代にかけての遺構

1トレンチ中央部で検出した大溝(SD01)は3次・9次調査で確認されたものの延長線上に位置します。埋土を観察すると、流水の痕跡に乏しく、人為的に埋め戻されているため、空堀状であったと考えられます。

調査の結果、①大溝が調査地点よりもさらに南へ伸び、長さが約80m程度になること、②埋め立てと掘り直しが複数回行われたこと、③8世紀前葉～10世紀代にかけての約200年間維持されていたことなどが新たに判明し、従来の想定よりも大きな1辺約80mの国衙域が西側に広がる可能性が高くなりました。



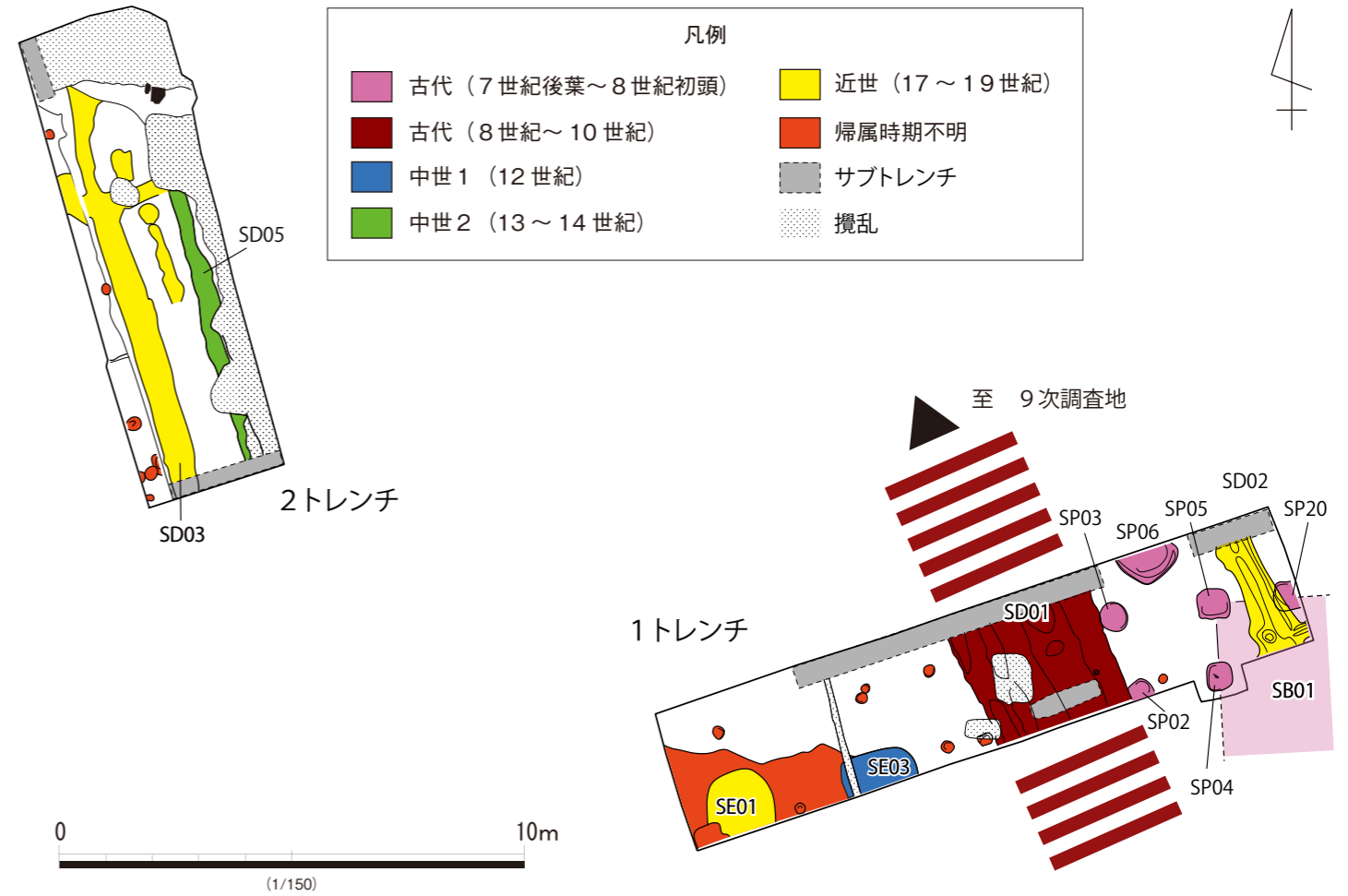
▲ 奈良～平安時代にかけての大溝跡(SD01)(北から)



▲ SE03から灯明皿を検出した様子(北東から)



▲ 第40次讃岐国府跡発掘調査2トレンチ全景写真(南から)



▲ 第40次調査遺構平面図(S=1/150)

3. 中世の遺構

1トレンチ西部で井戸(SE03)を確認しました。上部は後世の削平で破損していましたが、下部構造は残存しており、1辺約70cmの方形の井側を組んで、底に曲物を1段井筒として設置しています。出土遺物から、12世紀前葉に構築され、12世紀後半には埋められたと考えられます。

この時期の讃岐国府では、大型の掘立柱建物跡群が廃絶し、新たに井戸と小区画の掘立柱建物跡で構成された屋敷地が多数出現します。これらは「留守所」となった国府で政務を行った豪族の宿营地と考えられ、調査地点にもこの時期の屋敷地があったことが分かりました。



▲ 12世紀代の井戸跡(SE03)(西から)

4. 本年度の調査成果

今回の発掘調査では、①史跡指定地で確認された前身官衙の関連施設が北側にも広がること、②3次・9次調査で確認された大溝が国衙を区画するもので、その西側に1辺約80mの国衙域が広がる可能性があること、③「留守所」期の屋敷地が調査地点でも存在していたことが新たに分かりました。

しかし、調査地点の西側に国衙域が存在する可能性を裏付けることができませんでしたが、内部施設の実態は不明なままであり、その範囲と内容について今後も調査・検討を続けていきます。